

NMO OfficeLetter

舞鶴で自衛隊施設に大型投資続く！

舞鶴の海上自衛隊施設への大型投資が続いている。6月に同市北吸の赤レンガ倉庫群の近くに約30億円をかけて大型の補給倉庫が完成した。別の場所にある弾薬倉庫では約20億円をかけて拡張工事が行われている。来年度の防衛費の概算要求では舞鶴基地関連施設に約110億円を計上した。市内に点在する170棟の自衛隊関連の建物の建て替えや改修工事が予定されている。さらに、護衛艦2隻の追加配備もあり、弾薬庫も3棟建設の予定がある。



海上自衛隊新倉庫

<解説>この大型投資が続く背景には、政府の防衛力の抜本的な強化方針がある。かつて軍港として名前をさせた舞鶴港が再び軍港としての価値を高めるのか。2022年12月に当時の岸田内閣が安保関連における防衛力整備計画などを閣議決定したことによる。反撃能力の保有を明記し、アメリカ製長距離巡行ミサイルトマホークの配備を目指す。ご存じのようにこの計画の実現に向けて43兆円の防衛費の増額が決まった。原資をどうするかで国会で激しい議論があったことは記憶に新しい。

防衛予算は、23年度が6.8兆円、24年度が7.9兆円に大きく膨らんだ。25年度の概算要求では、8.5兆円になる予定だ。この金額には在日米軍の再編成に関する経費は含まれていないから、それも含めると膨大な額になる。現在の舞鶴の自衛隊関連施設は、古いものでは1930年に建てられた官舎がある。建物の更新は、武器や人件費に予算が振り向けられ、ハードへの更新投資は抑制されてきた。海岸線では秋田県から島根県までを管轄する海上自衛隊への投資は、面前に中国、北朝鮮があるため、有事の安全性を考慮して、今後大幅に強化されるはずだ。主要な司令部は地下に機能強化を目指して、



海上自衛隊教育隊隊舎

堅固な要塞を必要とする。2022年にロシアのウクライナ侵攻があり、中国と台湾の関係も非常にリスクが高い。住民からすれば、知らない間にどんどん軍事施設が近隣に完成し、敵国からのミサイルの標的になる懸念が高まっている。防衛費が増額され、地元の建設業界に恩恵が及ぶのは、一時的には恩恵を受けるが果たしてそれがいいのかという疑問は残るだろう。今回の総選挙の結果を受けて、この方針が堅持されるのか、あるいは変更になるのか。いずれにしても、地元経済に与える影響は大きい。



海上自衛隊 護衛艦「ふゆづき」
舞鶴基地出港